

令和7年度 八幡平市教育委員会

三行詩 入賞作品集



「この冊子を手にしたみなさんへ」

【三行詩は思いの結晶】

どれも素敵な作品ですが、人によって受け止め方はさまざまです。この作品集を読むと、より多くの読者の共感を得た思いに触れることができます。

【思いをカタチにすることの尊さ】

今年の応募数の目標は1020でした。結果は1213。大幅に上回りました。このコンクールにとって「数」は大事です。ひとつひとつの作品には作者がいますから、作品の数だけ作者の思いがカタチになったことになります。たくさんの情報に囲まれ、慌ただしく過ぎていく生活の中で、思いをコトバにする時間は貴重です。自分に向き合う、生活に向き合う、自然に向き合う・・・人間らしい時間です。八幡平市の1213人が人間らしい時間をもったことになります。

【子どもからおとなまで】

子どもがよりよく育つには、地域の教育的な土壌がだいじです。おとなが教育を大事に思い、人間らしい感情を豊かにすることです。三行詩をめぐる思いはその感情と重なり合います。今回、市民の応募が125、これまでで最高でした。学校ぐるみの応募以外にもコミュニティセンターを通じた応募が増えました。また、少数ではありますがメール、郵送による応募もありました。

【ちいさな幸せがいつばいのまちに！】

三行詩コンクールは表彰して終わりではありません。これからが第2章。これらの作品をより多くの市民にお届けします。作品集、巡回展、ホームページ・・・46の思いにふれ、市民はきつとちよつとしあわせな気持ちになることでしょう。

三行詩大賞

大更小学校

二年 三浦 柊菜乃

にがてな野菜

ママのまほうで

おいしいごはん！



2次審査においてもっとも審査得点の多かった作品を今年度から「三行詩大賞」として表彰します。

ひなのさんの作品は食事の大切さに気づかせてくれます。家庭によってはパパの魔法かもしれません。八幡平市のキッチンが魔法使いでいっぱいになればいいです。

金賞は各部門一作品
銀賞は各部門三作品
銅賞は各部門五作品

金賞

大更小学校 一年 (女子)

とうちゃんがしごとでとおくにいて

あまりかえってこれないから

あそべなくてさみしい

どこでもドアがあればいいのにな

たくさんの人がおとはさんの気持ちをわかってくれていて、応援したい気持ちです。とうちゃんもきっとどこでもドアがほしいと思っているよ。



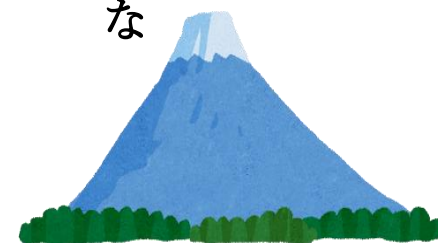
大更小学校 六年 佐々木 華

岩手山

大きいから背のびして見るよ

そうしたら 私も大きくなれるかな

岩手山



この方法があったか！

大きいけど頑張って登って てっぺんに立ったよ
そうしたら 私の方が大きくなったよ

松尾中学校 一年 本堂 幹大



八月十五日の終戦記念日

ぼくはおじいさんたちと野球をした

青空の下 皆で笑い楽しめたことに

心からのありがとう

平和についてちよつと考えた



戦後 80 年
平和の思いは平和な経験から



平舘高校 一年 田村 流輝

今年見た夏の田んぼはとてもキレイだ
風で波打つ海のようにゆれている
その稲を見ると 少しずつしく感じた

読んだ私にも風が吹いてくるよう
美しい八幡平市



田 頭 (児童生徒保護者)

「クワガタ 飼いたいなあ」


喜ぶ息子の顔が見たくて

仕事帰り

街灯の下 寄り道




街灯を見上げる父親の姿が目に浮かびます。後半の体言止めが秀逸。




銀賞

(小学校低学年 部門)



大更小学校 一年 遠藤 優奈

かえったら なにからはなそう きょうのこと




大更小学校 一年 (男子)

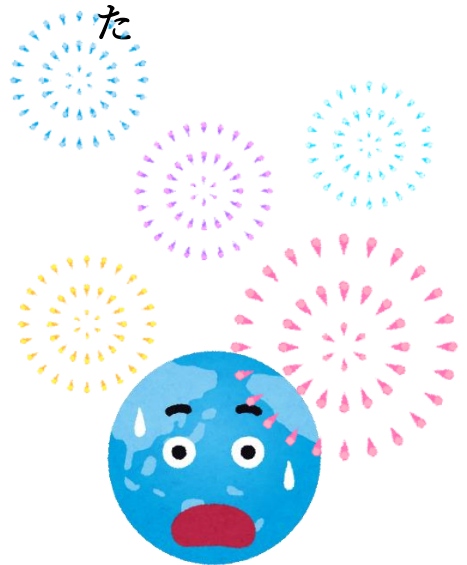
うちあげはなび

おおきなおとにびつくり

ちきゅうがこわれたとおもった



大更小学校 三年 松村 瑛太



はたけでしゅうかくナスとれた

へんなかたちのナス

まるでくつろぐおじさんみたい



銀賞

(小学校高学年部門)

大更小学校 四年 本堂 凰我

お母さんはぼくの表情だけで何でも分かる
楽しい時 悲しい時 具合が悪い時
お母さんはすごい



松野小学校 四年 田村 敦仁


せんぱいの くやしなみだに ちかう夏
かんしゃの思い プレーで見せる



平舘小学校 六年 高橋 咲帆

私が笑うとみんなも笑う
みんなが笑うと私も笑う
そんな笑顔のドミノだおし
どこまでも続くといいな





銀賞

(中学校 部門)



西根第一中学校 一年 藤原 ゆず

友達と毎年行っているお祭り
今年も行きたいけれど・・・



やっぱり一度でいいから好きな人と行ってみたいな



西根中学校 二年 (男子)

朝のチャイム 駆ける教室 忘れた宿題



松尾中学校 三年 遠藤 百華



「いってらっしゃい」 その一言で 今日一日頑張れる

銀賞

(高等学校 部門)

平館高校 一年 高橋 花音

いっぱいのは汗は 農業を頑張ったしるし

良い点数のテストは 勉強を頑張ったしるし

私の努力は成長のしるし



平館高校 三年 高橋 優介



終わりを迎えた 白球を追いかけた 思い出の日々が

平館高校 三年 遠藤 梨音

言葉は透明な糸

目には見えないけれど

確かにひととひとを結んでいる





銀賞

(市民部門)



大更

(児童生徒保護者)

良い事あれば 半音上がり
落ち込んでると 半音下がる
声色でわかってしまう あなたの今日の出来事



寺田

遠藤 大佑

朝思う 今日休肝日
昼思う 休肝日は明日でも良いか
夜思う 今日一日がんばった 乾杯



大更

佐々木 智史

ある日 森の中 クマさんに
今や近所でクマさんに



銅賞

(小学校低学年 部門)

平笠小学校一年 工藤 彩春


一かいめのなつやすみ おてつだいは
せんたくものをたたみます
かどをそろえてきれいにたたむよ
「ママよりじょうず」とほめられた



大更小学校 一年 齊藤 大真


なつのおと ちりんちりと ふうりんのおと
みーんみーんと せみのおと
どんどんどんと おまつりのたいこのおと
あーたのしいな なつのおと



 田頭小学校 二年 千田 渉平


ひとまずね やめるんじゃないかって ちよつときゅうけい
きゅうけいってだいじだよ



 大更小学校 三年 工藤 千鶴

おかあさんにくつついていたいわたし
あついからはなれてというおかあさん
すこしはなれてまたくつつくわたし



 大更小学校 三年 山子澤 楓

わたし1点 弟1点 お母さん3点 お父さん10点
ことし「カ」からおいしい血で賞をもらったのは お父さん

銅賞

(小学校高学年 部門)

松野小学校 四年 高橋 一颯

家にとんできたミヤマクワガタ

大きくてりっぱなアゴ ぼくの夏が始まった！



松野小学校 四年 (女子)



花火を友達と初めて見た

いつもよりきれいに大きく見えた

となりに友達がいるだけで ふつうの景色がとくべつになる

寄木小学校 五年 伊勢 仁香

お母さんの朝のたまごやきは

甘かったり しよっぱかったり 毎日少し味がちがう

でも必ずあたたかくてやさしい味がするよ





平笠小学校 五年 工藤 心春

夏休み「どっか いこう？」と母に言ってみるもの
「宿題やったのー？」と母に言われる
毎年こうれいのやり取りだ



安代小学校 五年 関 陽心

三行詩どうしよう あれはどう？ これはどう？
いろいろ考えたけどわからない

「お母さん 助けてー」けっきょくお母さんに助けてもらう
これがお母さんといっしょにいるための作戦 A





銅賞

(中学校 部門)



松尾中学校 一年 高橋 柑奈

ゴロゴロ甘えてみたり すんつとしてみたり
シャーって怒ったり

ねえねえ猫ちゃん 私と同じ思春期なの？



西根中学校 二年 (女子)

やっと夏休み でも聞こえてくるのは セミの声より母の声



松尾中学校 二年 大巻 佑輔

負けても笑顔 泥だらけ


それでも続けたいこの場所で
いつか強くなると信じてる



 松尾中学校 二年 高橋 かりな


毎日の小さな一歩が 夢へと続く道になる
信じて進む あきらめずに



 松尾中学校 三年 佐々木 ころろ

あと半年で運動会だね
あと半年で 卒業だね
何気ない友達との会話






銅賞

(高等学校 部門)




平舘高校 一年 津志田 咲来

勉強で脳を使い 運動で体を使う
いつも全身を使って生活している
だから疲れた時は 心を使ってリフレッシュ



平舘高校 二年 滝川 和絆

試合中 必死に応援 母最高



平舘高校 二年 畑澤 和葵

毎日こつこつと 続けることで 自分が強くなる



兄はいつも楽しそう

いっぱい働いて 趣味をたのしんでいる
はやく働きたいな

平舘高校 三年 大坪 流碧



平舘高校 三年 伊藤 雄成



美しい自然と温かい街
この街の一人一人が
輝きを守る立役者



銅賞

(市民部門)



田頭

(児童生徒保護者)

ランニング 走り出したはいいけれど
気付けばすぐに ウオーキング



寺田

(児童生徒保護者)

朝からかみなり落としても
「いってらっしゃい」の声かけは
大きく手を振り 晴天の笑顔で



柏台

(児童生徒保護者)

ねえ パパママ 見て見て
いっぱいできるようになったんだよ



スマホばかり見ないで ボク達見てよ

大更 高橋 政孝

「疲れた」と言うと周りにうつるから
僕は代わりに
「お疲れさま」と言おう



寄木 (児童生徒保護者)

今日は振り返るかな
前見て歩いてほしいけど
振り返ってほしいな 「いってらっしゃい」



令和7年度「三行詩」入賞者一覧

四 銅賞（各部門 五点）

・小学校低学年部門

一 三行詩大賞（一点）	大更小学校	二年	三浦 柊菜乃	平笠小学校	一年	工藤 彩春
二 金賞（各部門 一点）	大更小学校	一年	（女子）	大更小学校	一年	齊藤 大真
	大更小学校	六年	佐々木 華	田頭小学校	二年	千田 渉平
	松尾中学校	一年	本堂 幹大	大更小学校	三年	工藤 千鶴
	平館高等学校	一年	田村 流輝	・小学校高学年部門		山子澤 楓
	田頭		（児童生徒保護者）	松野小学校	四年	高橋 一颯
				松野小学校	四年	（女子）
				寄木小学校	五年	伊勢 仁香
				平笠小学校	五年	工藤 心春
				安代小学校	六年	関 陽心

三 銀賞（各部門 三点）

・小学校低学年部門

大更小学校	一年	遠藤 優奈
大更小学校	一年	（男子）
大更小学校	三年	松村 瑛太

・小学校高学年部門

大更小学校	四年	本堂 風我
松野小学校	四年	田村 敦仁
平館小学校	六年	高橋 咲帆大

・中学校部門

西根第一中学校	一年	藤原 ゆず
西根中学校	二年	（男子）
松尾中学校	三年	遠藤 百華

・高等学校部門

平館高等学校	一年	高橋 花音
平館高等学校	三年	高橋 優介
平館高等学校	三年	遠藤 梨音

・市民部門

大更		（児童生徒保護者）
寺田		遠藤 大佑
大更		佐々木 智史

・高校部門

平館高等学校	一年	津志田 咲来
平館高等学校	一年	滝川 和絆
平館高等学校	一年	畑澤 和葵
平館高等学校	一年	大坪 流碧
平館高等学校	一年	伊藤 雄成

・市民部門

田頭		（児童生徒保護者）
寺田		（児童生徒保護者）
柏台		（児童生徒保護者）
大更		高橋 政孝
寄木		（児童生徒保護者）

審査のまとめ

一 応募状況と取組の状況

左表のとおり、1213作品の応募がありました。1000作品の大会を超えるのは三年連続です。小学生、中学生が多数参加してくれました。また、課題だった市民の応募が増えました。各学校や市内コミュニティセンター他、関係するみなさんに感謝します。

各コミセンを会場にした「入賞作品巡回展」は四年目を迎え、作品がより多くの方の目に触れるようになりました。

二 審査方法

一次審査は学校、保護者、地域、行政関係者の十五人を三人ずつ五グループに分けて行いました。委員それぞれから部門ごとに十数点を推薦して頂きました。推薦された作品は五部門合わせて159作品になりました。

二次審査は五者を代表して、次の五人の皆さんにお願いしました。

【子ども代表】 田村 粋さん（平館高一年）

【親代表】 平野佑子さん（田頭小PTA会長）

【学校代表】 金野晶子さん（寺田小校長）

【地域代表】 大森力男さん（荒屋地区振興協議会長）

【行政代表】 坂本譲さん（教育総務課課長）

三 審査後の感想

・それぞれ立場の違う人たちが審査にあたることはいいことだ。若い人、年寄り、男性、女性みんな織り交ぜて、本音を出して審査することができてよかった。

・初めて審査に当たったが作品を選ぶ時間がすごく幸せな時間だった。ありがたい機会を与えていただいた。親子の触れ合い、暑さ、クマなど子どもたちは本当によく感じ取っているのだと実感した。

・小学生、中学生、市民の部、それぞれで「宿題やったの」という作品があって、面白いと思った。どこ家庭でも同じなんだと思った。

・三行詩を読みながら「自分もこんなことがあったな」と感じるものがあって、楽しかった。

・たくさん作品が寄せられ、市民にも浸透してきたと感じる。今後も続けていきたい。審査によって今年もすてきな作品が見出された。取組とともに本日の審査にも感謝したい。

令和7年度（2025年度） 応募状況		
部門	応募 点数	前年比
小学校 低学年	297	+51
小学校 高学年	337	+87
中学校	391	+6
高等学校	63	-16
市民	125	+6
合計	1213	+117

発 行

八幡平市教育委員会事務局 教育総務課

発行日

令和8年（2026年）1月30日